HHH

## 第1回 人★インタビュー復活!! Season2

## ~本城 裕樹先生インタビュー~

豊富な知識と経験で幅広い分野の業務をこなされている本城裕樹先生。本会の建設部専門委員としてもお世話になっております。

今回は、マルチな才能を発揮してご活躍されている本城裕樹先生の事務所に訪問し、お 話を伺いました。

(聴き手 通信員 宇野 雅彦)



【**通信員**】先生が行政書士を志したきっかけを教えてください。

【本城裕樹先生】中学校卒業のときに、親父の同級 生に税理士の方がおり、高校進学の際に私の保証 人になっていただきました。(確か、そんなこと があったように記憶しています。私が暴れん坊 だったわけではありません。)

その時に、税理士という職業を知り、将来なりたいと思い、チャレンジしましたが残念ながら試験に合格することが叶いませんでした。その後、損害保険の外交員の仕事で行き詰まったときに、ある行政書士の方に「行政書士は、最高の仕事だよ!お金もらえるし、仕事も教えてもらえるし、感謝もされるよ!こんな自由な仕事はないよ!」と教えていただき、26歳で脱サラ、行政書士を志しました。

【**通信員**】開業されてから軌道に乗るまでどのくらいの期間がかかりましたか。

【本城裕樹先生】3年程度の期間を要しました。しっかり、貧乏が染みついてしまいました。

【通信員】主にどのような業務を取り扱われている

のでしょうか。

【本城裕樹先生】開業当初は、建設業許可、経営事項審査、農地転用許可などが主な業務でした。

現在は、建設業関連がメイン業務ではありますが、土地関係(都計法、農地法)、相続関係、会社法関係、介護保険関係、医療法人、社会福祉法人、一般貨物自動車運送事業など多岐にわたっています。

まだ、着手していない分野としては、在留許可 関連です。

【**通信員**】お仕事をしていて、印象に残っている業務はありますか。

【本城裕樹先生】100歳まで1か月という方の遺言作成の業務に従事したときに、命の尊さ、人生の残酷さ、つまるところは意識があるうちは挑戦し続けることが人生なのではないかと考えさせられました。その遺言者は、自筆証書遺言を希望されたので、2週間程度寄り添いながら原案を考えて、何時間もかけて自筆にて遺言書を書き上げました。最終的には、遺言書の保管者の立場で、裁判所にて検認の手続を経るなどして遺言を執行した一連の流れは印象に残っています。

また、社会福祉法人を設立する際に、事業計画を作成し市の公募に採択されたことや、その後の県や市などの行政機関との許認可に関する協議、福祉医療機構や市中金融機関との資金調達に関する協議、地元住民に対する説明会など盛りだくさんでしたから、これも印象に残っています。約2年間にわたる長期案件はとても良い経験になりました。

【通信員】お仕事をしていて、大変苦労された業務

はありますか。

【本城裕樹先生】どんな業務でも苦労しかありません。 とても残念なことですが楽な業務は無いように感 じています。

歳(経験)を重ねると重い(苦労ばかりで儲からない)業務が増えてくるように感じます。

【**通信員**】先生のご趣味やストレス解消法を教えてください。

【本城裕樹先生】趣味は、海釣りです。30代までは テニス中心でしたが、最近は、釣果が無くても釣 りに癒されることが多いです。洋上で気ままに過 ごす時間はとても癒されますよ!

【**通信員**】新人行政書士の方々に対して一言お願い します。

【本城裕樹先生】これからの我々の業界は仕事のこなし方が大きく変わってくるので、新人とかベテランとか全く関係ないので、前向きにチャレンジし続けていただきたいです!

【通信員】今後の抱負(将来の目標)についてお聞かせください。

【本城裕樹先生】開業当初の目標である「週休3日」 を実現することですね!



冨田まゆ子先生と業務の協議をされている本城裕樹先生

取材にお伺いした際、事務所内はとても明るく、和気あいあいとした雰囲気に包まれており、先生のお人柄が反映されているようでした。このようなお人柄が、チームのパフォーマンスをさらに高めていると感じました。(現在、本城裕樹先生は、今関美絵先生と冨田まゆ子先生と共同で事務所を運営されておられます。)

ご多忙にもかかわらず、快く取材をお引き受けく ださり、誠にありがとうございました。

本城裕樹先生の今後の益々のご活躍をお祈り申し 上げます。

